



ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 銅版画教室スケジュール(2012年10月-12月)

tel:03-3665-0251 / mail:musee@yamasa.com

銅版画 自由教室

10/27(土)
14:00~17:00

当館での銅版画体験教室に参加された事のある方を対象といたします。
以前作った作品を発展させたい方、新たな作品を作りたい方へ、制作の場を提供いたします。

*講師はいませんが、美術館スタッフが簡単な説明とアドバイスをいたします。

*制作内容は参加者の方の自主性におまかせいたします。

*技法はモノクロームメゾチントに限ります。

会 場: ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 1階

定 員: 15名(抽選)

受 付: 往復はがきにて申し込みください。 **※10/15(月)必着**

参加費: 500円+入館料 ※メゾチントプレート(12×7.5cm)は、1枚1000円で販売いたします。

持ち物: 下絵、汚れても良い服装、またはエプロン。

以前の作品を手直しする方は、その時使用したメゾチントプレート。

紙はポストカードサイズのものを1名につき10枚用意しております。

それ以上の大きさの作品を刷る場合は、紙をお持ちください。

メゾチントプレートを持参する場合は必ずプレートマークをつけて下さい。

**経験者
向け**

モノクロームメゾチント 体験教室

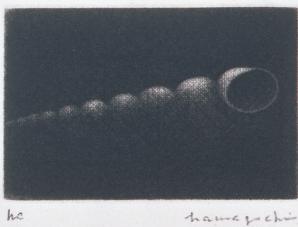
10/28(日)
14:00~17:00

モノクロームメゾチント技法を使って、製版から刷りまでを行う

初心者向けの体験教室です。

1回の講習でポストカード大の作品を完成させます。

浜口陽三「巻貝」 1979 メゾチント



講 師: 江本創(アーティスト)

会 場: ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 1階

定 員: 18名(抽選)

受 付: 往復はがきにて申し込みください。 **※10/15(月)必着**

参加費: 1800円+入館料

持ち物: 下絵(サイズ12×7.5cm)、汚れても良い服装、エプロン。

**初心者
向け**

カラーメゾチント 体験教室

12/1・2(土・日) ※2日間連続講座
各日14:00~17:00

当館での銅版画体験教室に参加された事のある方を対象といたします。
二日間の講習ですので両日とも参加できる方のみご応募いただけます。

講 師: 江本創(アーティスト)

会 場: ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 1階

定 員: 15名(抽選)

申 込: 往復はがきにてお申込みください。 **※11/19(月)必着**

参加費: 5000円+入館料(2日目は入館料無料)

持ち物: 下絵(サイズ12×7.5cm・色つき)、汚れても良い服装、またはエプロン。

**経験者
向け**

各コース往復はがきにて申込後、抽選となります

応募方法: 往復はがきにて申込下さい。(右記参照)

ご希望のコースひとつをお選びの上、必ずコース名をご記入下さい。

数名で一緒に参加希望の場合は葉書にその旨をご記入ください。

応募〆切: **モノクロームメゾチント/自由教室 10/15(月)必着**

カラーメゾチント教室 11/19(月)必着

抽選結果: 返信はがきにて通知いたします。(応募〆切りの翌日発送予定)

※やむを得ずキャンセルされる場合は、お早めにご連絡ください。

※キャンセルが出た場合、落選された方へお電話でご案内することができます。

ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

郵便往復はがき □□□-□□□□	返 信	ご自分の住所 氏 名
往 信	郵便往復はがき 103-0014 ミセ浜口陽三・ヤマサコレクション 東京都中央区日本橋 一の三十五丁目七	

①ご希望のコース名と開催日
②氏名(ふりがな)
③郵便番号・住所
④電話番号(連絡先)

体験教室 Q&A

Q1.メゾチントってどんな技法?

A 1. 銅版画の技法のひとつ。ビロードのような画面が特徴です。

銅の板に施した凹部分にインクをつめ、凸部分の余分なインクはふき取って強い圧力で紙に刷るのが銅版画。

メゾチント技法では、最初に版全面にぎざぎざの傷をつけ(目立て)、ビロードのような黒い画面をつくります。

(当館の体験教室ではあらかじめ目立て加工のしてある銅板を使用します。)

明るく(白く)したい所は「スクレーパー」という道具でぎざぎざを削り、インクが溜まる量を減らします。

ぎざぎざが浅く、密度が低くなるほど明るく(白く)なり、微妙な削り加減で美しいグラデーションの表現が可能です。

えんぴつで黒くぬりつぶした画面に消しゴムで絵を描くようなイメージです。

Q2.どんな下絵を用意したらいいの?

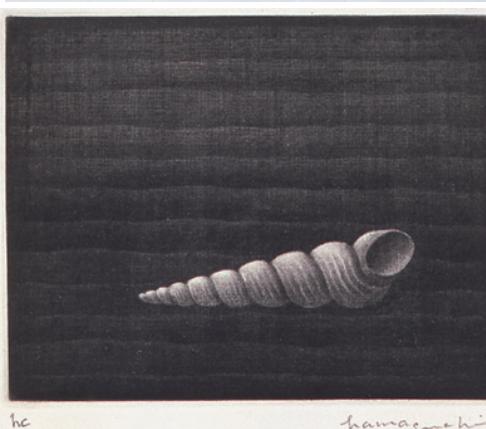
A 2. 浜口陽三の作品を参考に見てみましょう。



左上:「猫」1937年

ドライポイント技法による作品。(今回の教室ではこの技法は使いません)

銅の板に先のとがった針のような道具で引っ掻き、そこにインクが溜まり、刷ると黒くなります。「線」で描くのに向いた技法です。



左下:「巻貝」1959年

メゾチント技法による作品。(今回の教室で使う技法です)

暗い背景のから白い巻貝が浮かびあがります。

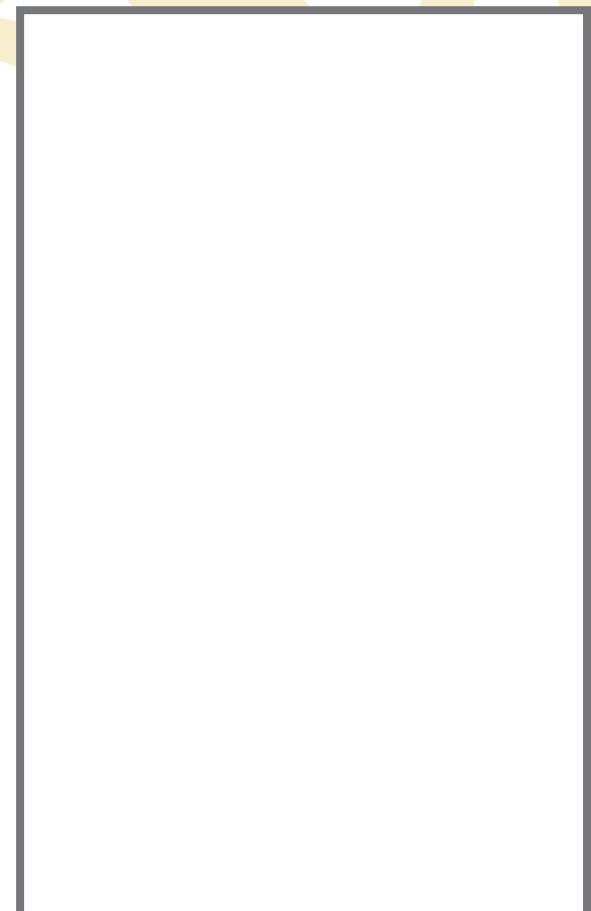
よくみると、線ではなく、黒の「濃淡」で描かれています。

貝のまるみを帯びた形、影、背景のグラデーションは、メゾチントの得意とする表現です。どちらかというと「線」の表現には向きません。

下絵を描くときは白…グレー…黒の、色の濃淡を意識して、えんぴつなどで塗り分けてみてくださいね。

(カラー教室に参加の方は色つきの下絵を用意してください。)

そのほか分からないことがありましたら美術館までお問い合わせください。



下絵サイズ:12×7.5cm(縦横どちらでも可)